

—主体的・対話的で深い学びの実現— 「確かな学力」 —個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実—

「より良くしていこう」と自己調整して学ぶ児童の育成
～「個別最適な学び」を協働的な学びと一体的に充実させる指導方法の工夫～



授業に関わって

学習環境の整備

- ・「維孝館学園スタディモデル」「学習の10の約束」「声のもののさし」等の掲示による授業規律等の共有
- ・ユニバーサルデザインを取り入れた教室掲示
- ・児童が興味を持つための校舎掲示物の工夫

授業形態の工夫

- ・均等割り、コース別、習熟度別等1クラスを分ける工夫
- ・チームティーチングや個別の支援を要する児童への対応など複数教師による指導の工夫
- ・中・高学年の一部教科担任制による指導の工夫

体験活動の充実

- ・「地域にとってつながりあえる学校」を目指した学校支援ボランティア等諸団体・機関と連携した体験学習

授業づくり

- ・『学びのサイクル』[P【めあて】→D【学習活動】→C【まとめ・ふりかえり】→A【結果どうしたいのか】]
- ・授業研究(年3回)による授業イメージの共有
- ・「授業の流れカード」の提示による見通しの持てる授業
- ・A I ドリルの活用による個々の能力の伸長
- ・学習評価規準(ルーブリック)の作成・活用による指導と評価の一体化

望ましい学習集団の育成

- ・生徒指導実践上の4つの視点を意識した学級経営
- ・自己肯定感を高め、絆を深める特別活動及び児童会活動
- ・生活目標の取組
- ・人権旬間(5月下旬)、人権月間(11月)
- ・いじめアンケートの実施と分析(年3回)
- ・Q Uの実施と分析(4～6年・年2回)
- ・児童アンケートの実施と分析

I C Tの利活用

- ・1人1台タブレット端末(授業支援ソフト・課題等作成ソフト・コミュニケーションソフト等)
- ・大型電子黒板

カリキュラムの工夫

- ・読書タイム(毎朝10分)
- ・モジュール授業(毎日2時限目の後に10分間設定。国語科に位置づけた言語に関する学習を実施)
- ・ゴゴスタ(週2回午後の業間10分。情報活用能力・I C T活用向上のために活用)
- ・チャレンジタイム(水曜5校時 年間18回 国語・算数の基礎・基本の定着等に活用)
- ・読書旬間(5月下旬・11月下旬)
- ・夏の勉強会(夏季休業中)
- ・放課後等補充学習「学習支援事業(府の事業)」

学力分析・実態分析

- ・各種テストの実施、分析(全国学力・学習状況調査、府学力・学習状況調査、標準学力調査)
- ・算数科における配慮を要する児童の分析と継続的指導(ブルーファイル)
- ・特別支援及び生徒指導等の視点からの児童の実態分析・交流(Q U及びピンクファイル)

多面的・多角的なアプローチ

教職員研修の充実

- ・教員同士の授業参観
- ・自己のキャリア、職務に応じた各種研修への参加
- ・「研究通信」による情報提供
- ・I C T活用等の事例交流
- ・書籍等から先進事例に関する学び

人材の活用

- ・各加配等(学力充実教員・教育支援教員・教員業務支援員・図書館司書・心の居場所サポーター)
- ・外国語専科教員及びA L T
- ・中学校教諭の入込(5・6年音楽科及び図画工作科)
- ・スクールカウンセラー及びびまなび・生活アドバイザー
- ・学生パワーボランティア

家庭との連携・協働

- ・PTA活動
- ・基本的生活習慣の見直し
- ・家庭学習の質の向上(家庭学習の手引き・家庭学習強化週間)
- ・読書習慣の定着
- ・保護者アンケートの実施

地域及び各機関との連携・協働

- ・学校評議員会
- ・地域ぐるみ子育てネットワーク
- ・学校支援ボランティア
- ・放課後児童健全育成施設(元気っ子クラブ)
- ・民生委員・青少協・社会福祉協議会等
- ・学校だより・HPでの情報公開

小小連携・小中連携

- ・小中連絡会(6月・3月)
- ・維孝館学園小中一貫教育の取組(小中一貫・教頭・小小連携・カリキュラムマネージャー・学び・交流・生徒指導・特別支援・人権教育・養護・事務の各部会)

各種連携

保幼小連携

- ・保幼小連絡会(6月・3月)
- ・入学前の学校生活体験及び学習体験(3月)

各教育活動での
PDCA
サイクル
の重視